

令和3年度 全国学力・学習状況調査 鴻巣市の結果の概要【中学校】

1 鴻巣市と埼玉県・全国との正答率比較

	国 語	数 学
鴻巣市	63	57
埼玉県	65	57
全 国	64.6	57.2

2 中学校各教科の領域・区分等について

<p>国語</p> <p>○「話すこと・聞くこと」は、全国・県平均を下回っています。 「書くこと」は、全国・県平均を下回っています。 「読むこと」は、全国・県平均を下回っています。 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全国平均を上回り、県平均を下回っています。</p>
<p>数学</p> <p>○「数と式」は、全国・県平均を下回っています。 「図形」は、全国・県平均を上回っています。 「関数」は、全国平均を下回り、県平均と同程度です。 「資料の活用」は、全国・県平均を上回っています。</p>

3 質問紙調査から（一部抜粋）当てはまる・どちらかといえば当てはまるを選んだ生徒の割合

質問事項	鴻巣市	埼玉県	(差)	全 国	(差)
学校に行くのは楽しいと思いますか	83.8	81.6	+2.2	81.1	+2.7
将来の夢や目標を持っていますか	70.0	70.0	±0	68.6	+1.4
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (学校の授業の予習や復習を含む)	68.6	65.3	+3.3	63.5	+5.1
1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	79.0	77.8	+1.2	74.3	+4.7
学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	83.6	82.6	+1.0	77.8	+5.8
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	76.5	74.8	+1.7	74.7	+1.8
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	45.0	40.6	+4.4	43.8	+1.2
国語の勉強は大切だと思いますか	93.4	91.8	+1.6	91.6	+1.8
数学の勉強は大切だと思いますか	86.8	83.9	+2.9	84.1	+2.7
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	89.2	89.0	+0.2	86.2	+3.0

4 学習指導改善のための今後の方策

各学校の実情に応じて、以下の取組を推進してまいります。

【鴻巣市学習指導の重点】

- 学習課題を明確にし、児童生徒が見通しをもって学習するとともに、学んだことを自分の言葉で表現するなど、一人一人が学習の成果を振り返ることができる授業を展開していきます。
- 学習課題について一人一人が考える時間を十分に確保し、自分の考えをもって他者と交流することで、考えを深めていくことができる授業を展開していきます。
- 学んだことが確実に定着するよう、授業の中でまとめの練習問題に取り組むとともに、新たな課題を見付けたり、日常生活に活用したりできる授業を展開していきます。

【各教科における指導方法の改善】＜国語＞

○〔話すこと・聞くこと〕＜重点：質問の意図を捉える＞

- ・報告などを聞く際には、話の内容を理解するために、必要に応じて重要な情報を書き留めたり、分からないことや知りたいこと、確かめたいことなどを話し手に尋ねたりするよう、指導していきます。

○〔書くこと〕＜重点：伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く＞

- ・伝えたいことを読み手に分かりやすく伝えるために、目的や意図に応じて説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んで描写を工夫したりするよう、指導していきます。

○〔読むこと〕＜重点：文脈の中における語句の意味を理解する＞

- ・文学的な文章を読んで新しく出会った言葉を複数取り上げ、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を捉えるなどの学習活動が考えられます。その際、語句の意味について調べたことを記録したり、その語句を使った短文を作ったりすることなどを通して、話や文章の中で使うことができるように、指導していきます。

○〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕＜重点：相手や場に応じて敬語を適切に使う＞

- ・言葉遣いについては、小学校での学習を踏まえ、敬語を含め広く相手や場に応じた言葉遣い全般について指導する必要があります。その際、公的な場面で改まった言葉遣いをするもののほか、会話をしたり手紙を書いたりする際に相手に応じた語句を選んで用いることなどにも留意するよう、指導していきます。

【各教科における指導方法の改善】＜算数＞

○〔数と計算〕＜重点：数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する＞

- ・数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って、数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察することができるよう、指導していきます。

○〔図形〕＜重点：ある条件の下でいつでも成り立つ図形の性質を見だし数学的に表現する＞

- ・条件を保ったまま動かした図形を観察し、辺や角について変わらない性質を見いだす活動を取り入れ、ある条件の下でいつでも成り立つ性質や関係を捉え、それを数学的に表現できるよう、指導していきます。

○〔関数〕＜重点：事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する＞

- ・日常的な事象における伴って変わる二つの数量について、観察や操作、実験などの活動から得られたデータを、表やグラフに表現することを通して、その二つの数量の関係を捉えることができるよう、指導していきます。

○〔資料の活用〕＜重点：相対度数の必要性と意味を理解する＞

- ・度数の合計が異なる二つの集団のデータの傾向を比べる場合、度数分布表の各階級の度数で比べてよいかについて検討する場面等を取り入れます。大きさの異なる二つ以上の集団のデータについて、その傾向を比較するために、相対度数が必要であることを理解できるよう、指導していきます。